



(故) 轡田三男氏を想う

浦高7回卒 藤井泰光

「君に逢う、うれしさの、胸に深く・・・」ある者は大声で、またある者は目を閉じて歌う”水色のワルツ “だった。広島国体に優勝以来、いつしかこの歌が浦高サッカー勝利の歌になっていた。

優勝のたびに何度となく歌ったこれら集団の中に、割箸をバイオリンに仕立て、おどけて見せる“オヤジサン”の姿が必ずあった。

浦高サッカーの行くところ、影の形に添うごとく、何事が起ころうとも決して怒らず、ことあれば楯となり、事成れば黙して語らないオヤジサン。

元全日本代表選手、極東オリンピック出場金の看板など少しも感じさせず、グラウンドでは自ら汗してボールを投げそして蹴り、ミーティングでは豊富な経験からの適切な指示を与えている。合宿では、私達が疲れて綿のように寝ている間に黙々と原稿を書き、送っておられたオヤジサン。

浦高サッカーの度重なる全国優勝の陰には、太田稔氏をはじめとする多くの良き先輩、監督の宮川先生、県サ

ッカー協会の池田久先生のご努力、ご協力もさることながら、あのニコやかなオヤジサンの存在を忘れることはできない。

ご指導いただいた昭和26年以降の部員達にとってオヤジサンは心の寄りどころであり、文字どおりオヤジであった。

背を心もち丸め、髪をなびかせて走るオヤジサンの姿は、浦高サッカーの前代未聞のスリークラウンを含む69連勝の記録とともに消えることはない。

オヤジサンの日本サッカー界への貢献が認められ、勲五等双光旭日章が贈られた。

当時のメンバーによる叙勲祝賀会で、正面に座るはずのオヤジサンは、2ヶ月前に還らぬ人となっていた。

みんなで歌った。“君に逢う、うれしさの、胸に深く・・・”オヤジサンにたむけるはなむけにふさわしいメロディーだった。